

組合員が福島産直産地を訪問

サンネット 産直収穫体験ツアー



生産者の思いを、直に聞く貴重な機会。

9月15日、コープ東北サンネット事業連合（以下、サンネット）は、宅配事業で取り引きのある産直センターふくしまを訪問し、生産者と組合員が交流する産直収穫体験ツアーを行いました。このツアーは、今年で4回目で、合計41人が参加しました。

昨年のツアーは、企画検討段階で、東京電力福島第一原発事故による農作物への影響が盛んに報道されていました。そのため、開催があやぶまれましたが、生産者の「今年もできることなら企画してほしい」との声に実施を決定。結果、48人の組合員が集まりました。「去年も苦しいなか、交流できたことで頑張れたんです」と産直センターふくしま理事の阿部哲也さんは話します。

産直センターふくしま事務局長の服部崇さんは、除染作業について、「こんなことをして果樹自体が駄目になってしまうのではないのかという不安を感じながらの作業でした」

と振り返り、「顔は笑っているけど汚染された農地に心中傷ついています」と心情を吐露してくれました。「半分の顧客が離れてしまい、1年半経過しても状況は何も変わっていない。私たちにとって、サンネットの取り組みは数少ない希望です。来てくれたことに感謝しています」

最後に、阿部理事長は、「私たち生産者は、皆さんにつながっている限り、決してあきらめないし、頑張る決意です」と力強く決意を述べてくれました。

「もっと販売してほしい」

福島県産の「絆ボックス」で生産者を応援



福島県産の農産物を詰め合わせ、お届けする。

サンネットでは、10月の宅配の企画で、「福島県産 絆ボックス」の供給を実施しました。このボックスは、福島県産の農作物をセットにし、販売しているものです。昨年も大好評で、今年も8月第1週～9月第1週までの企画としてご案内

していましたが、企画の期間延長の声が組合員から多く寄せられたため、再度企画しました。

初企画は、「がんばろう ふくしま！ 農産品応援ボックス」として、2011年6月の第1週から9週間に渡って行なわれた企画で、その後、内容物や名称を変えながら、平均して2カ月に1回のペースで供給しており、供給個数は約23万セット、供給高は1億5,000万円にのびります（10月4週現在）。

また、7月28日には、同企画の一環として、宅配の職員と取引先の計28人が福島県産直桃生産者を訪問し、桃の「かさかけ」作業を手伝

いました。企画意図について、サンネット共同購入商品本部農産事務の遠藤敬さんは、「組合員さんは、『買って』応援する、生産者さんは、それに応え最高の果物・野菜を作る。われわれ職員も何かして応援したいという気持ちがずっとあり、実施にいたりました」と話していました。



「桃を食べるたび、この畑を思い出したいと思います」